

# 2022年第11回村上春樹国際シンポジウム

## 村上春樹文学における「紐帯」(Solidarity)

### プログラム



進行形式 **新型コロナウイルス拡大のため、オンライン参加のみ**  
 会場 Microsoft Teamsによるオンライン会場  
 時間 2022年6月18日(土)・6月19日(日)  
 申込み先 <https://enroll.tku.edu.tw/course.aspx?cid=tfjx20220618>  
 申込締切 2022年6月16日(木) 22:00

\* 参加申込みをされた方に6/17までに「オンライン会議の入室URL」、及び「会議予稿集データ」をメールにてお送りします。

\* 以下は全部台湾時間(日本・韓国は台湾より1時間進んでいます。)

1日目・2022年6月18日(土曜日)		
0920-0930	オンライン会議室の入室開始	
0930-0950	<b>開会式</b> 会場 オンライン会場A 開会挨拶 曾 秋桂(淡江大学教授兼村上春樹研究センター長・日本語文学科主任) 呉 萬寶(淡江大学外国語学部学部長) 村嶋 郁代(日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長) 司 会 樋口 達郎(淡江大学助理教授)	
0950-1000	休憩時間	
1000-1100	<b>基調講演 1</b> 会場 オンライン会場A 司 会 頼 振南(輔仁大学教授) 題 目 紐帯と物語—村上春樹の小説における戦争— 講演者 中村 三春(北海道大学教授)	
1100-1200	<b>基調講演 2 英語</b> 会場 オンライン会場A 司 会 余 盛延(台北科技大学教授) 題 目 'Relationships' in Murakami Haruki Literature: The Global Literature Restoration. 村上春樹文学における「紐帯」・グローバル文学維新へ 講演者 マシュー・ストレッカー(上智大学教授)	
1200-1300	昼食時間	
1300-1400	<b>基調講演 3</b> 会場 オンライン会場A 司 会 邱 若山(静宜大学教授) 題 目 村上春樹文学における「紐帯」としての時空—「記憶」の共有と継承— 講演者 高橋 龍夫(専修大学教授)	
1400-1405	休憩時間	
1405-1410	<b>セッション1</b> 会場 オンライン会場A コメンテーター 齋藤 正志(中国文化大学教授)	<b>セッション2</b> 会場 オンライン会場B コメンテーター 黄 如萍(高雄餐旅大学准教授)
1410-1430	曾 秋桂(淡江大学教授) 「紐帯」の視点から読む『1Q84』におけるソーシャル・キャピタルの光と影—社会現象を凝縮した村上春樹の提示—	山根 由美恵(山口大学講師) イメージの(紐帯)とオリジナリティ—「ふしぎな図書館」17カ国版の比較を通して—
1430-1450	荻原 桂子(岡山理科大学教授) 村上春樹『約束された場所で underground 2』における紐帯—現代人の心について—	王 佑心(銘傳大学准教授) 小説家村上春樹の翻訳の仕事—紐帯としての『マイ・ロスト・シティー』—
1450-1500	質疑応答	質疑応答
1500-1505	休憩時間	
1505-1510	<b>セッション3</b> 会場 オンライン会場A コメンテーター 林 慧君(台湾大学教授)	<b>セッション4</b> 会場 オンライン会場B コメンテーター 楊 琇媚(南台科技大学准教授)
1510-1530	頼 錦雀(東呉大学特聘教授) 随筆から見る村上春樹の紐帯—「神戸まで歩く」と「猫を棄てる」を中心に—	范 淑文(台湾大学教授) 『海辺のカフカ』に見る紐帯—縛られる「カフカ少年」—
1530-1550	石川 隆男(台湾大学・輔仁大学非常勤助理教授) 『猫を棄てる 父親について語るとき』をめぐって—記憶という紐帯の存在—	横川 彰(静宜大学講師) 村上春樹とわたせせいぞうの紐帯—両者の初期作品から感じられたこと—
1550-1600	質疑応答	質疑応答

主催 淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語文学科  
 共催 科技部・台湾日本語教育学会・台湾日本語文学会  
 後援 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所



# 2022年第11回村上春樹国際シンポジウム

## 村上春樹文学における「紐帯」(Solidarity)

### プログラム



進行形式 **新型コロナウイルス拡大のため、オンライン参加のみ**  
 会場 Microsoft Teamsによるオンライン会場  
 時間 2022年6月18日(土)・6月19日(日)  
 申込み先 <https://enroll.tku.edu.tw/course.aspx?cid=tfjx20220618>  
 申込締切 2022年6月16日(木) 22:00

\* 参加申込みをされた方に6/17までに「オンライン会議の入室URL」、及び「会議予稿集データ」をメールにてお送りします。

\* 以下は全部台湾時間(日本・韓国は台湾より1時間進んでいます。)

2日目・2022年6月19日(日曜日)			
0950-1005 オンライン会議室の入室開始			
1005-1010	セッション5	会場 オンライン会場A	セッション6
		コメントーター 黄 翠娥(輔仁大学教授)	会場 オンライン会場B
1010-1030		内田 康(京都府立大学共同研究員)	落合 由治(淡江大学特聘教授)
		危機に向き合う紐帯 —『神の子どもたちはみな踊る』とafter the quakeの間—	村上春樹作品における紐帯関係 —自然言語処理による探究—
1030-1050		楊 琇媚(南台科技大学准教授)	佐古 恵里香(京都精華大学非常勤講師)
		村上春樹「蜂蜜パイ」論 —家族としての(紐帯)—	読解における文化的な転移に関する一考察—「紐帯」をキーワードとした中上級日本語学習者の日本文化理解のプロセスから—
1050-1100		質疑応答	質疑応答
1100-1105 休憩時間			
1105-1110	セッション7	会場 オンライン会場A	セッション8
		コメントーター 范 淑文(台湾大学教授)	会場 オンライン会場B
1110-1130		黄 如萍(高雄餐旅大学准教授)	鄒 波(復旦大学准教授)
		村上春樹「品川猿」論 —〈紐帯〉としての「品川猿の告白」—	村上春樹文学における「紐帯」 —ドーナツをめぐる—
1130-1150		樋口 達郎(淡江大学助理教授)	藤城 孝輔(岡山理科大学講師)
		「品川猿の告白」における(紐帯)	メディア間の紐帯としてのアダブレーション —『森の向う側』(1988)の場合—
1150-1200		質疑応答	質疑応答
1200-1300 昼食時間			
1300-1305	セッション9	会場 オンライン会場A	セッション10
		コメントーター 申 忠均(全北大学校教授)	会場 オンライン会場B
1305-1325		楊 炳青(北京外国語大学准教授)	余 盛延(台北科技大学教授)
		村上春樹文学における「紐帯」—「貧乏な叔母さんの話」と『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』における無名の人々—	Communal Solidarity as a Tax vs. Human Solidarity as Imaginative Empathy in Haruki Murakami's 1Q84
1325-1345		肖 禾子(北海道大学博士後期課程)	葉 菱(淡江大学准教授)
		村上春樹『1Q84』論 —幻想的紐帯と世界の置き換え—	村上春樹『東京奇譚集』における紐帯 —他者との繋がり—
1345-1355		質疑応答	質疑応答
1355-1400 休憩時間			
1400-1405	セッション11	会場 オンライン会場A	
		コメントーター 楊 錦昌(輔仁大学教授)	
1405-1425		齋藤 正志(中国文化大学教授)	
		村上春樹文学における紐帯としての書簡 —直子と岡田亨—	
1425-1445		ダルミカタン(広島大学助教)	
		「紐帯」としての村上春樹文学 —「村上春樹RMX」シリーズについての一考察—	
1445-1455		質疑応答	
1455-1500 休憩時間			
1500-1600	パネルディスカッション	テーマ 村上春樹文学における「紐帯」	パネリスト① 中村 三春(北海道大学教授)
		会場 オンライン会場A	パネリスト② マシュー・ストレッカー(上智大学教授)
1600-1630		司会 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター長)	パネリスト③ 高橋 龍夫(専修大学教授)
			パネリスト④ 齋藤 正志(中国文化大学教授)
			パネリスト⑤ 楊 炳青(北京外国語大学准教授)
			パネリスト⑥ 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター長)
1630-1640 総論討論			
1630-1640	閉会式	会場 オンライン会場A	
		閉会挨拶 曾 秋桂(淡江大学教授兼村上春樹研究センター長・日本語学系主任)	
		司会 樋口 達郎(淡江大学助理教授)	

主催 淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語学  
 共催 科技部・台湾日本語教育学会・台湾日本語学会  
 後援 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所

